



2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年2月4日

上場会社名 持田製薬株式会社

上場取引所 東

コード番号 4534 URL <https://www.mochida.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 持田 直幸

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 竹田 雅好

TEL 03-3358-7211

四半期報告書提出予定日 2022年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	84,814	6.2	13,045	16.6	13,447	17.7	10,180	21.1
2021年3月期第3四半期	79,881	1.0	11,184	33.9	11,428	32.0	8,407	31.8

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 6,859百万円 (16.6%) 2021年3月期第3四半期 8,227百万円 (80.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	266.29	
2021年3月期第3四半期	217.19	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	164,991	129,546	78.5
2021年3月期	161,791	126,974	78.5

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 129,546百万円 2021年3月期 126,974百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		40.00		50.00	90.00
2022年3月期		40.00			
2022年3月期(予想)				40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	109,000	5.8	13,000	8.3	13,400	9.3	9,500	10.6	249.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.8'2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期3Q	40,630,000 株	2021年3月期	40,630,000 株
2022年3月期3Q	2,610,256 株	2021年3月期	2,360,613 株
2022年3月期3Q	38,231,844 株	2021年3月期3Q	38,711,352 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
3. 補足情報	9
(1) 主要製品の売上高	9
(2) 医薬品等開発状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

医薬品業界では、社会保障費財源確保の問題を背景とする薬剤費抑制政策が継続的に推し進められる中、2021年4月には薬価の中間年改定が行われました。また企業間競争も加速しており、引き続き厳しい事業環境にあります。

このような状況下、当第3四半期連結累計期間における当社グループ(当社及び連結子会社、以下同じ)は、事業環境の変化にも対応し持続的に成長し続けるために、利益重視と将来への投資の継続を基本方針とし、「新薬等への注力」「次世代の柱構築のための継続的な投資」「選択と集中による、リソースの戦略的再配分」に重点的に取り組んでまいりました。医薬品関連事業では、循環器、産婦人科、精神科、消化器の重点領域等へリソースを集中し、主力製品を中心とした学術情報提供活動を積極的に展開いたしました。また、ヘルスケア事業は、敏感肌用スキンケアのパイオニアとして事業活動を行い、マーケティングの強化に努め市場開拓を図ってまいりました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は84,814百万円で前年同期比6.2%の増収となりました。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業の売上高は80,451百万円で前年同期比6.5%の増収となりました。新薬の抗うつ剤「レクサプロ」、潰瘍性大腸炎治療剤「リアルダ」、慢性便秘症治療剤「グーフイス」、「モビコール」、及び月経困難症治療剤「ディナゲスト」の売上高が伸長しました。また、2020年5月に販売を開始した痛風・高尿酸血症治療剤「ユリス」も寄与しました。一方、長期収載品の高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤「エパデール」、及び持続性Ca拮抗降圧剤「アテレック」の売上高は、前年同期を下回りました。後発品事業の売上高は前年同期をやや上回りました。

ヘルスケア事業の売上高は4,363百万円で前年同期比0.5%の増収となりました。「コラージュフルフルシリーズ」の抗真菌成分配合シャンプー・リンス・石鹸、同シリーズの育毛剤、及び基礎化粧品「コラージュリペアシリーズ」の売上高が伸長しました。

次に当第3四半期連結累計期間の利益面につきましては、研究開発費の増加を主な要因として販売費及び一般管理費が増加しましたが、医薬品関連事業の売上高増加に伴い売上総利益が増加したことにより、営業利益は13,045百万円で前年同期比16.6%の増益、経常利益は13,447百万円で前年同期比17.7%の増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は10,180百万円で前年同期比21.1%の増益となりました。

研究開発の状況につきましては、研究面では、オープンイノベーションの推進を通じた早期開発候補品の導入等により開発パイプラインの充実を図るべく創薬研究活動に取り組んでおります。また、統合失調症治療薬、疼痛治療薬(TRPV1拮抗薬)の導出活動にも積極的に取り組んでおります。

臨床開発面では、新規高純度EPA製剤「MND-2119」が製造販売承認申請中です。「MD-711」の肺動脈性肺高血圧症について製造販売承認申請を行いました。「リアルダ」の小児適応、「レクサプロ」の小児適応、ファイザー株式会社と共同開発を行っている抗うつ剤「MD-120」、中国において住友製薬(蘇州)と提携して開発を進めている高トリグリセリド血症治療剤「MND-21」、及びイドルシアファーマシューティカルズジャパン株式会社と共同開発を行っている不眠症治療剤「ACT-541468」については、それぞれ臨床第Ⅲ相段階にあります。「MD-711」の間質性肺疾患に伴う肺高血圧症については、臨床第Ⅱ/Ⅲ相段階にあります。

医療機器として開発している関節軟骨損傷治療材「dMD-001」については、検証的治験段階にあります。また、海綿体神経損傷治療材「dMD-002」については、探索的治験段階にあります。

当第3四半期連結累計期間の研究開発費は9,107百万円であります。

なお、業績に対する新型コロナウイルス感染症の影響は限定的でした。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第3四半期連結会計期間末の総資産は、164,991百万円となり、前連結会計年度末比で3,200百万円増加いたしました。

資産の増加は、主に現金及び預金が減少しましたが、受取手形及び売掛金や有価証券が増加したためです。負債の増加は、主に賞与引当金が減少しましたが、支払手形及び買掛金や電子記録債務が増加したためです。純資産の増加は、主に配当金の支払により利益剰余金が減少しましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加があったためです。

(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、今後も厳しい状況が継続すると考えられますが、当第3四半期連結累計期間の業績は計画を上回って推移していることから、2021年11月5日に公表いたしました連結業績予想を変更しております。連結業績予想の修正につきましては、2022年1月31日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、現時点では、業績に対する新型コロナウイルス感染症の影響は限定的と見込んでおりますが、今後、業績に大きな影響が見込まれる場合は、速やかに情報を開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	54,487	47,703
受取手形及び売掛金	28,766	36,210
電子記録債権	423	—
有価証券	8,999	13,499
商品及び製品	14,404	15,016
仕掛品	1,759	1,497
原材料及び貯蔵品	6,442	6,510
その他	3,508	4,040
流動資産合計	118,793	124,478
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,939	4,858
機械装置及び運搬具（純額）	2,047	1,805
土地	5,092	5,092
その他（純額）	1,220	1,982
有形固定資産合計	13,299	13,738
無形固定資産	646	664
投資その他の資産		
投資有価証券	20,272	15,587
繰延税金資産	3,198	4,562
その他	5,580	5,958
投資その他の資産合計	29,051	26,109
固定資産合計	42,998	40,513
資産合計	161,791	164,991

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,477	11,319
電子記録債務	1,245	1,694
未払法人税等	2,061	1,818
賞与引当金	2,496	1,344
その他の引当金	787	251
その他	13,641	14,050
流動負債合計	28,710	30,478
固定負債		
退職給付に係る負債	4,652	4,511
その他	1,453	455
固定負債合計	6,106	4,966
負債合計	34,816	35,445
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,229	7,229
資本剰余金	1,871	1,871
利益剰余金	116,288	123,024
自己株式	△8,857	△9,702
株主資本合計	116,532	122,424
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,311	7,068
退職給付に係る調整累計額	131	53
その他の包括利益累計額合計	10,442	7,121
純資産合計	126,974	129,546
負債純資産合計	161,791	164,991

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年 4月 1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日)
売上高	79,881	84,814
売上原価	36,933	37,985
売上総利益	42,948	46,829
返品調整引当金繰入額	8	—
差引売上総利益	42,940	46,829
販売費及び一般管理費	31,755	33,783
営業利益	11,184	13,045
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	245	284
その他	103	154
営業外収益合計	351	440
営業外費用		
支払手数料	35	32
為替差損	69	—
その他	3	7
営業外費用合計	108	39
経常利益	11,428	13,447
特別利益		
固定資産売却益	5	—
受取和解金	27	—
投資有価証券売却益	—	526
特別利益合計	32	526
特別損失		
固定資産除売却損	61	4
災害による損失	—	2
固定資産撤去費用	135	108
支払和解金	—	100
特別損失合計	197	215
税金等調整前四半期純利益	11,263	13,757
法人税等	2,855	3,577
四半期純利益	8,407	10,180
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,407	10,180

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年 4月 1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	8,407	10,180
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△188	△3,242
退職給付に係る調整額	7	△77
その他の包括利益合計	△180	△3,320
四半期包括利益	8,227	6,859
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,227	6,859

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、一部の取引について、従来は顧客から受け取る対価の総額を収益として認識していましたが、顧客への財又はサービスの提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引については、顧客から受取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識することとしております。また、顧客に支払われる販売奨励金等の一部について、従来は販売費及び一般管理費として処理する方法によっておりましたが、売上高から減額する方法に変更しております。さらに、従来は返品見込額に基づいて流動負債の「その他の引当金」に計上していた「返品調整引当金」については、返品されると見込まれる製商品についての売上高を認識しない方法に変更しており、返金負債として流動負債の「その他」に含めて表示しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高へ与える影響はありません。

また、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

3. 補足情報

(1) 主要製品の売上高

主要製品の売上高

(2022年3月期 第3四半期実績)

(単位：億円)

製 品 名	前 期		当 期		対前年 同四半期 増減率	
	2021年3月期		2022年3月期			
	第3四半期 実績	年間 実績	第3四半期 実績	年間 見込		
抗うつ剤	レクサプロ	119	155	127	166	+ 7%
潰瘍性大腸炎治療剤	リアルダ	84	109	96	125	+ 15%
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤	エパデール	81	101	69	83	△ 15%
慢性便秘症治療剤	グーフィス	37	49	46	66	+ 22%
慢性便秘症治療剤	モビコール	26	35	37	49	+ 45%
持続性Ca拮抗降圧剤	アテレック	31	39	27	34	△ 12%
子宮内膜症・子宮腺筋症・月経困難症治療剤	ディナゲスト	16	22	25	34	+ 57%
慢性疼痛・抜歯後疼痛治療剤	トラムセット	34	42	27	31	△ 20%
抗悪性腫瘍剤	ドキシル	22	30	23	28	+ 0%
肺動脈性肺高血圧症治療剤	トレプロスト	13	16	13	17	+ 0%
血液凝固阻止剤	ヘパリンNa	10	13	10	13	+ 2%
痛風・高尿酸血症治療剤	ユリス	2	2	6	11	+ 165%
尖圭コンジローマ・日光角化症治療剤	ベセルナ	8	10	8	10	+ 4%
真菌症治療剤	フロリード	7	9	7	10	△ 2%
後発品		194	256	198	268	+ 2%
スキンケア製品		43	57	43	59	+ 0%

- ・レクサプロは、自社販売と田辺三菱製薬株式会社への販売の合算
- ・アテレックは、アテディオを含む
- ・ユリスは、2020年5月より販売を開始

(2) 医薬品等開発状況

医薬品等開発状況

【医薬品】

開発コード 〈一般名〉 [製品名]	開発段階	予定適応症	剤型	備考
MND-2119 〈イコサペント酸エチル〉	申請中	高脂血症	経口剤	自社開発
* MD-711 〈トレプロスチニル〉	申請中	肺動脈性肺高血圧症	吸入剤	ユナイテッド・セラピューティクス社から導入 自社開発
MD-0901 〈メサラジン〉 [リアルダ]	臨床第Ⅲ相	潰瘍性大腸炎 (小児適応)	経口剤	シャイアー・ファーマシューティカルズ・グループ 社(現武田薬品グループ)から導入 自社開発
MLD-55 〈エシタロプラムシウ酸塩〉 [レクサプロ]	臨床第Ⅲ相	うつ病・うつ状態 (小児適応)	経口剤	ルンドベック社から導入 自社開発
MD-120 〈デスベンラファキシニコハク酸塩水和物〉	臨床第Ⅲ相	うつ病・うつ状態	経口剤	ファイザー(株)と共同開発
MND-21 〈イコサペント酸エチル〉 [エパデール]	臨床第Ⅲ相	高トリグリセリド血症	経口剤	開発地域:中国 住友製薬(蘇州)と提携
ACT-541468 〈ダリドレキサント塩酸塩〉	臨床第Ⅲ相	不眠症	経口剤	イドルシア ファーマシューティカルズ ジャパン (株)と共同開発
MD-711 〈トレプロスチニル〉	臨床第Ⅱ/Ⅲ相	間質性肺疾患に伴う 肺高血圧症	吸入剤	ユナイテッド・セラピューティクス社から導入 自社開発

【医療機器】

dMD-001 〈アルギン酸ナトリウム〉	検証的治験	関節軟骨損傷	—	アルギン酸ゲル 自社開発
dMD-002 〈アルギン酸ナトリウム〉	探索的治験	海綿体神経損傷	—	アルギン酸シート 自社開発

* 2022年3月期第2四半期決算短信(2021年11月5日公表)からの変更点

医療機器の開発段階は医薬品とは異なり、第Ⅰ相から第Ⅲ相のような区分はなく、その内容により探索的治験と検証的治験に区分されます